

いきなり いわた 人

30周年を迎えた
「桶ヶ谷沼を考える会」理事長

のぶひる
今村 信大さん

1948年生まれ 69歳
磐田市大立野在住
趣味はカメラ。トンボはもちろん
季節の花なども撮り歩く



市

の昆虫ベッコウトンボが生息する桶ヶ谷沼。その桶ヶ谷沼の自然を守るために発足した「桶ヶ谷沼を考える会」が、今年30周年を迎えました。今回のさらにいわた人は、桶ヶ谷沼の環境保全に尽力する「桶ヶ谷沼を考える会」理事長の今村信大さんです。

「桶ヶ谷沼を考える会」はどのような団体ですか？

桶ヶ谷沼の自然を守っていくためにはどうしたらいいかを提言できる団体をつくりたいと思って、30年前に60人で発足しました。現在の会員は130人ほどですが、一時期は最高で600人を超えたこともありました。

30周年を迎えた気持ちは？

ここまで来られたなと思う一方で、会を立ち上げた意義などを振り返る機会になりました。国内ではどこにも負けない運営ややり方ができていると思っているので、初心に戻って市民の皆さんに桶ヶ谷沼のことを伝えていきたいです。

どのような活動をしていますか？

近年の活動では、毎年4月末から5月初旬頃にベッコウトンボの調査会を行っています。ほかにもオオフサモという外来植物の駆除や桶ヶ谷沼ビジターセンターと共催して野鳥観察会などを行っています。

この30年で特に印象に残ったことは？

発足初期の頃はいろいろな活動をしたので、その頃が印象的です。観察小屋まで延びる観察路は、当時3年がかりで整備しました。桶ヶ谷沼は公園ではないので、自然を守るために人が入らないようにしたいという思いと、桶ヶ谷沼をもっといろいろな人に知ってもらいたいという思いがあって、どの木を切るか一本一本話し合いながら造りました。

桶ヶ谷沼の魅力は？

日本で一番多くのトンボが生息している環境が、人が生活しているすぐ近くにあることはとても希少なことです。そんな環境が身近にあることが魅力ですね。

桶ヶ谷沼を楽しめる時期は？

トンボといえば秋を連想する方も多いと思いますが、多くの種類のトンボを見ることができるのは、6月から7月頃です。ベッコウトンボなどの希少な種は、3月下旬から5月初旬の春先に見られますよ。(8ページ参照)

これからの目標は？

桶ヶ谷沼を子どもたちがもつと自由に自然に触れることのできる場所にしたいです。今年「おけがや自然塾」をスタートさせます。ここで育った子どもたちが、将来桶ヶ谷沼を守る担い手になってくれればうれしいですね。